

1 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

(1) 外国語活動の目標

外国語に慣れ親しむ中で、いろいろな人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、日本と外国の言語や文化の違いを知り、それらを尊重しようとする態度を育てる。

(2) めざす児童像

- ・外国語による言語活動を楽しむ子（かしこい子）
- ・外国語や身振りを使って自分の意思を積極的に表現したり、相手の話をよく聞きその意思を理解したりしようとする子（たくましい子）
- ・外国と日本の文化の違いを理解し、相手のことを思いやりながらかわる子（やさしい子）

(3) 教職員・児童・保護者による評価（アンケート）の結果

下記のアンケートの項目は、上記の「外国語活動の目標」及び「目指す児童像」に関連する項目を掲載している。

※評価欄には令和3年7月と12月に教職員、児童、保護者に実施した学校評価の平均を掲載。

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

<教職員アンケート>

	内 容	評価
1	児童同士の学び合いを促進する活動を積極的に取り入れた。	3.4
2	発達段階に応じた「聴く力」、「話す力」等の学習技能を身につけさせている。	3.0
3	体験活動によって、コミュニケーション力をはじめとする人間関係調整力の高まりを感じる。	3.1

<児童アンケート>

	内 容	評価
1	授業中は、積極的に話し合ったり、発表したりしている。	3.2
2	授業は分かりやすい。	3.6
3	学校での授業で英語の力（話す・聞く・読む・書く）がついてきているように感じる。	3.4

<児童の感想（自由記述）>

- ・外国語を通して、他国の文化も学び、外国語を身近に感じるようになった。
- ・英語でいろいろなことが話せるようになった。
- ・外国の文化を学び、その文化を体験してみたくなった。
- ・英語でのやりとりが少しできるようになり、外国の人と会話してみたい。
- ・積極的に質問ができるようになった。
- ・ALT と英語でもっと会話してみたい。
- ・英語が少し聞き取れるようになってきた。
- ・海外に行って、英語で会話してみたい。
- ・町内を英語で話しながら回りたい。

など

<保護者アンケート>

	内 容	評価
1	学校は、子どもに学力がつくように熱心に指導している。	3. 3
2	子どもは、元気なあいさつをしている。	3. 1
3	子どもは学校へ行くのが楽しいと言っている。	3. 3

2 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果の公表に関する情報

教育課程特例校として全学年で外国語活動に取り組み、ALTや中学校教員と共に中学校英語への接続を意識した研究を継続している。ALTが主導する上関小・中独自の英語検定システム（KEPT）もあり、確実な評価による外国語教育の充実を図ってきた。

特別の教育課程に基づく教育の実施に向けて、指導計画、日課編成、教材準備について校内で調整にあたっている。また、ALTの学年配置については町教育委員会と協議し、適切な配置計画を作成した。実施状況については、毎時間授業に入るALTを交えた自己評価や授業終盤に実施する児童のふり返しカード等によって改善のための評価を行うとともに、学校運営協議会で諮る学校評価において改善の視点を得ている。

また、これまで小学校低学年からの外国語活動に取り組んできているので、ALTの問いかけに対する反応の鋭さ、コミュニケーションへの意欲的な態度の向上が授業中に観察でき、その成果は顕著である。これは、コミュニケーション能力の素地を養う域を超え、基礎を養うという水準だと捉えている。外国語活動に熱心に取り組む学校に対し、保護者や地域からも期待が寄せられていると推察される。

アンケート結果、普段の授業の見取りから、外国語でのコミュニケーションによって、他者と関わることのよさを改めて感じたり、より積極的に関わられたり姿も見られている。そのことは、本校が掲げる「めざす児童像」の具現化につながっていると感じている。

